

1/14
五

お金がなくて医療機関にかかるのことを我慢し、耐えきれずに受診したときは手遅れだった。痛ましいケースが依然として各地で相次いでいます。全日本民主医療機関連合会（全日本医連）の2017年「経済的事由による手遅れ死亡事例調査」では、29都道府県で63人の命が1年間で失われていました。貧困と格差の広がりの中で、国民の命と健康を守るために公的医療制度がしっかり機能していない深刻な現実を突き付けています。こんな事態は一刻も放置できません。悲劇を防ぐため、医療など社会保障の仕組みを改革・拡充することが急がれます。

生活困窮がもたらす悲劇

—経済的余裕がない国民健康保

主張

「受診手遅れ死」

隙料を滞納、受診時に10割負担となる資格証明書を発行される。体調悪化を約3ヶ月間我慢し、耐えられず救急で受診。手遅れのため直腸がんで亡くなった60代男性。—多額の借金を抱え国保料を払えず。健診で精密検査が必要とする未受診。呼吸が苦しくなり

ても未受診。呼吸が苦しくなりると指摘されています。

調査では、失職で収入が減るなどは、安価賃三政権が社会保障改悪

は、安倍賃三政権が社会保障改悪

は、安倍賃三政権が社会保障改悪

は、安倍賃三政権が社会保障改悪

は、安倍賃三政権が社会保障改悪

は、安倍賃三政権が社会保障改悪

は、安倍賃三政権が社会保障改悪

は、安倍賃三政権が社会保障改悪

命奪う深刻な事態を断ち切れ

受診したときは肺がんで、治療の効果がなく死亡した40代男性。全日本医連が先月発表した「手遅れ死」事例調査は、経済的な困窮によって健康がむしばまれ、命が失われていく悲惨な実態を浮き彫りにしています。

同調査は05年から行われていま

すが、近年50~60人台で推移して

おり減少傾向はありません。この

滞納する世帯は全国で280万以

上にのぼり、正規の保険証を受け取れないのは100万世帯を超え

ています。高すぎる国保料の引き

下げや軽減措置の拡充を実現する

通じて把握されたもので、「氷山の一角」です。実際はさらに多くの人の命が失われている可能性があります。健診で精密検査が必要とする指摘されています。

調査では、失職で収入が減るなどは、安価賃三政権が社会保障改悪

は、安倍賃三政権が社会保障改悪

は、安倍賃三政権が社会保障改悪

は、安倍賃三政権が社会保障改悪

は、安倍賃三政権が社会保障改悪

は、安倍賃三政権が社会保障改悪

窓口負担の重さから

生存権の破壊を許さず。

4月から開始された「国保の都

道府県化」は、市町村による国保

生存権の破壊を許さず。

生存権の破壊を許さず。

生存権の破壊を許さず。

生存権の破壊を許さず。

生存権の破壊を許さず。

生存権の破壊を許さず。

生存権の破壊を許さず。

生存権の破壊を許さず。

生存権の破壊を許さず。

生存権の破壊を許さず。